

## 世界で3拠点目となる ジャパン・ハウス ロンドンが オープン

### ジャパン・ハウスとは

「日本を知る衝撃を、世界へ」をコア・メッセージに、日本への理解と共感を世界に広げるため、外務省のイニシアチブの下、日本政府が海外への情報発信拠点と位置づけるのが「ジャパン・ハウス」です。

2017年4月に1拠点目として開館したブラジル・サンパウロ、同年12月に一部先行開館した2拠点目のアメリカ・ロサンゼルスに続き、3拠点目としてイギリス・ロンドンのジャパン・ハウスが6月21日開館し、22日より一般公開されました。

【6月22日より一般公開されたジャパン・ハウス ロンドン】



ジャパン・ハウス ロンドンは、ロンドン西部の商業的・文化的要素を兼ね備えたケンジントン地区にオープンし、1階が展示スペースと日本の伝統的工芸品の販売、2階には日本食レストラン、地下には自然や文化に関する本を揃えた図書スペースとセミナーなどがおこなえる多目的スペースを備えています。

世界108都市に展開するシティ・ガイド「タイム・アウト」や、イギリスの大手新聞「ガーディアン紙」にもジャパン・ハウス ロンドンのオープンが掲載され、オープニングイベントである建築家の藤本壮介氏の巡回展も紹介されました。

【1階は日本の伝統的工芸品の展示・販売スペース】



【2階は食材や食器にもこだわった日本食を提供するレストラン】



【地下は自然や文化に関する本を揃えた図書館と多目的スペース】



### ジャパン・ハウスの目的

ジャパン・ハウスは、日本の多様な魅力や政策を発信することで、知日派・親日派の裾野を拡大することを目的とした新たな対外発信拠点です。

ジャパン・ハウス ロンドンの建設費は約 22 億円、年間の施設運営費は 10 億円を超えとも言われ、一部には、掛かる費用に対して、その効果が十分見込まれるのかを疑問視する声もあるようです。

これまで、ロンドンを例にとりますと、在英国日本国大使館では産業振興や、文化交流、訪日観光誘致など、様々な取り組みがおこなわれています。日本食の分野では、日本食スーパー・マーケットである民間企業のジャパン・センターがロンドンでの日本食の普及、拡大の面で広く知られています。ジャパン・センターの顧客の約 9 割は外国人だそうです。来月 11 日には、同社の関連企業がクール・ジャパン機構からの出資を受け、新たな日本食文化の発信拠点を開設予定です。

【日本食の販売だけでなく、フードコートも併設するロンドンのジャパン・センター】



文化交流の面では、常設ではありませんが、年 2 回、日本のポップ・カルチャーから食文化、観光まで、幅広く紹介するイベント「HYPER JAPAN」が、ロンドンで開催されています。

【毎年 7 月、11 月に開催される日本イベント「HYPER JAPAN」】



### 地域活性化のための情報発信拠点として

ジャパン・ハウス ロンドンの新たな取り組みのひとつとして、地域の特産品や伝統的工芸品などの展示会をこない、海外展開を後押しし、地域活性化を図る取り組みがあります。

ジャパン・ハウスのホームページには、地方事業者向けの「利用申請要領」を掲載しており、事業の趣旨・目的や、展示する物品の概要等、実施時期等を、ジャパン・ハウス事務局と事前に相談の上、申請する手順です。

文化的、商業的な側面を併せ持ち、日本の多様な魅力を発信し続ける拠点として、これまでの取り組みからさらに踏み込んだものとなっており、ジャパン・ハウス ロンドンが国境を越える架け橋となっていくことが期待されます。

以上

本レポートは情報提供のみを目的として作成したものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客さまご自身でご判断くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。本レポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成していますが、当行はその正確性を保証するものではありません。本レポートのご利用によりお客さまがいかなる損失、損害を受けられても当行は一切の責任を負いません。本レポートはお客さま限りでご利用くださいますようお願いいたします。